

さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

# わくわく



2019春号

座談会 放課後等デイサービスの今・未来

文芸

訪問記

ふくしフワンポイント情報

認定 特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

さくらに

日向 尋

さくらが空を覆っている

今日ばかりは車もそろそろ走る

この速度を非難する者はいない

延々と続くこの一、六キロ

よくもまあ でかしたもの

一九五二年 さくらを植えたそうなの

三百の苗木に 未来を込めて

桜まつりに エネルギーが集まる

何十万人もが来て さくらを愛でる

今年は 若葉に集まるといふ

いいねえ まつりは いいねえ 若葉は

思い思いに ここで

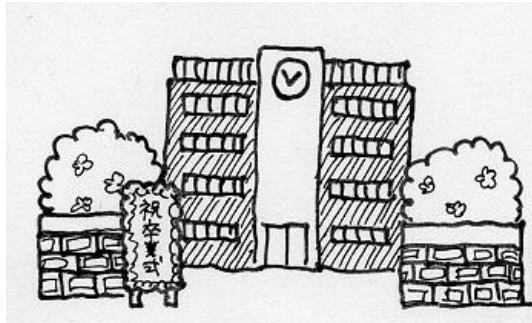
話そう 遊ぼう

手をつなごう

いいねえ さくらには



巻頭詩	.....	1
もくじ	.....	2
座談会 放課後等デイサービスの今・未来	.....	3~9
ふくしワンポイント情報 スポーツや文化を通じた障がいの理解	.....	10~11
相模原の尖跡—原当麻観心寺	.....	12
まんが「わくわくさん」番外編 ウサギとカメ〜甲子ほ	.....	13
詩	.....	14~15
東林第二高齢者支援センターを訪ねて	.....	16~17
人物シリーズ 45: 中臺 博さん	.....	18~19



手話シリーズ 39	.....	20~21
パズルにチャレンジ	.....	22~23
私が選んだハイキングコース ~照手姫・ロマン探訪の小路を歩く~	.....	24~25
情報コーナー 障がい者に関するマーク①	.....	26
協会のPRページ	.....	27
編集後記・奥付	.....	28

## 放課後等デイサービスの今・未来

平成31年3月10日

放課後等デイサービス事業所

じゃんぼ☆じゃんぼにて

(社福) すずらんの会

発達支援グループぱれっと

グループ長 斎藤優子さん

(特非) 地域福祉研究舎

副理事長 坂本桃子さん

(株) すとろく

代表取締役 田嶋史門さん

合同会社 MNB

代表 美濃辺慎一さん

司会／相模原ボランティア協会

西本 敬

### ◆かかわりのきっかけは

**司会**／今日は、相模原市の南区を中心に活動されている放課後等デイサービスをやってらっしゃる方々にお越しいただきまして、お話を色々聞かせてい

ただきたいと思います。最初まず自己紹介ということでお願いいたします。

**田嶋**／事業所名「たいにい・ぼつくす」

で管理者をしております田嶋史門と申します。「たいにい・ぼつくす」は私と妻で事業を起こしました。私たち夫婦は福祉の仕事をしていましたが、私自身、人に話すほどの強い志望があつてというのではなく、学生時代からの人と人とのつながりの中で福祉職に就いたのです。そんな中で次女が障がいを持つて生まれました。何かの縁だったんでしようね。自分たちで障がい児の居場所をつくろうと決意しました。

次女が生まれたとき、入所施設で働いていました。福祉で働いているもの



田嶋史門さん

として、プロ意識とかプライドもあつて、月に一回様子を見にくる親御さんより私たちの方が毎日一緒にいるし、よく知っていると思っていました。そんな中で次女が生まれて、そんなにも衝撃を受けたという自分自身に驚きました。やはり当事者、障がい児について外の人間が理解することは、どんなに身近にあつてもできないんだということを知ったのです。そこで、わかっているつもりだったことを見直しながら、自分が生まれ育つた場所で障がい児の居場所を作っていこうと思つたのです…。うまく言えたかわからないですが…。

**司会**／「すとろく」という会社の代表をやっておられますが、これは？

**田嶋**／会社としては三十七期になりますが、両親がもともと運営していたビルメンテナンスの会社です。その会社の定款を変えまして福祉事業を入れしました。法人格が必要だったので、利用させてもらったのです。

**司会**／斎藤さん、お願いします。



齋藤優子さん

**齋藤／社会福祉法人「すずらん会」**

の発達支援グループに「ぱれっと」と「ぱれっとやまと」という事業所があり、私は2事業所を統括するグループ長であり、「ぱれっと」の所長という立場です。私は中規模の法人の社員という立場で、他の方々のような創業者ではありません。「ぱれっと」の由来はよくわかりませんが、言いやすいし、お子さんたちのそれぞれの色で、カラフルに発達していけばいいということなのかと思うています。

私たちは、いわゆる放課後等デイサービスとは全然違う形でやっています。私自身も臨床心理士であり、先月始ま

った資格、公認心理師でもあります。療育にあたるスタッフは全員、臨床心理士か言語聴覚士の資格を持っていて、送迎もやらず、お母さんと子供たち、お父さんも結構登場しますが、ご家族と子どもで通ってもらって一時間ぐらい個別にお勉強するというスタイルでやっています。

**司会／坂本さん、お願いします。**

**坂本／NPO法人「地域福祉研究舎」**

という法人を立ち上げて「じゃんぼ☆じゃんぼ」という放課後等デイサービス事業を経営している施設長です。偉そうな感じですね(笑) 法人では副理事長ですけど。六人しかいないので。こじんまりとやっています。放課後等

デイをやるうと思っただのは、もともと成人の通所施設で働いていて、養護学校から上がってくる子たちが、十八年間いろんなところで積み重ねてきたのに、児童福祉法から総合支援法というのに変わるというところで分断されてしまうので、もうちょつと連携がとれ、シームレスにつながる方法があればいいと思って作りました。また、自分が難

病を患い、福祉から離れていた間に、私が生まれ育ったこの東林間という地域で障がいのあるお子さんを育てている七十代のお母さんが、四十代の二人の息子さんを殺してしまうという事件が起きました。そのお母さんが地域とつながっていなかったのでもなく、いろんなところとの関りがあつたけど、起きてしまったのです。私は社会福祉士なので、法人名も「地域福祉研究舎」とし、地域で生き生きと生きられるということができないかやってみたくて、この小さなニーズがこの地域にあつて、この小さな地域から展開して、こんな社会福祉資源があつて、というのをやってみたいということでした。

**司会／美濃辺さん、お願いします。**  
**美濃辺／美濃辺です。自分を知る小中高の友達に、自分が福祉をやっているというのをきくと信じられないんじゃないかなと思っっています。始めた理由は、最初に始めた仕事を辞めて、何もやることもなくて、友達が高齢者特養**





美濃辺慎一さん

で働き始めたというのを聞いて、人と関わる仕事がしたいと、高齢者のデイサービスからスタートしております。当時その法人もだんだん大きくなって、自分がやりたい地域に根付いた仕事とか、自分が年とった時にこういうところに行きたいって新しいサービスを設計する自由が利かなくなって、居心地も悪くなって、だったら違うところでも、小さいところからもう一回スタートしようかなと、高齢者のいろいろな事業所に変わったんですが、その後、放課後等デイサービスを、葛飾、春日部と経験して、今回相模原でお仕事させてもらうことになりました。関わっ

ていく中で、障がいと言っても、僕らの子どもの頃は普通にいた子たちだなと思い、そんな子供たちに寄り添えたらと、法人を立ち上げました。

### ◆名称あれこれ

**美濃辺**／法人名の「MNB」は美濃辺そのものです。(笑)で、施設名の「がくまるちよば」は、私が大好きな芸人さんから名をいただいたもので、その人たちはパントマイムの名人です。今、関わっている子たちは言葉だけが伝達ツールではなくて、子どもたちに寄り添いたいな、相手の気持ちを感じ取りたいなという意味でその名前を頂きました。「がくまるちよば」という言葉はジョージア語で「こんにちは！」という意味です。

**司会**／名前の由来ですが、田嶋さん「たにい・ぼつくす」という名前は？

**田嶋**／会社のマークにコウノトリが書いています。コウノトリは巢作りが上手いのでそれを見習って作り上げていきたいと言うところからきました。元々「たにい・ぼつくす」という地

域の集いの場所があり、そのスペースをそのまま名前ともども使わせてもらいました。また、皆がボックスを持ち寄って一つずつ開けて行ったら面白いし、子ども達もそれぞれ小さな箱を持っているのじゃないかということで、そのまま引き継ぎました。

**司会**／坂本さんの方も「じゃんぼ☆じゃんぼ」ですが、じゃんぼとは？

**坂本**／じゃんぼというのはスワヒリ語で「こんにちは！」です。日本ではジャンボジェット機やジャンボ尾崎みたいに大きいと言う意味で使いますが、地域で「こんにちは！」と大きい声で言える関係性が出来れば、障がいがあるのが無かろうが関係ないと言う思いでした。

### ◆放課後等デイサービスとは

**司会**／放課後等デイサービスはどんな狙いで、どんな方々を対象としているのかを解説的で結構ですので、ご説明いただければと思います。

**斎藤**／もともと児童デイサービスという制度があり、それが児童福祉法に変

わったタイミングで放課後等デイサービスが生まれました。もともと放課後等デイサービスは小学生から高校生までの放課後の居場所を作るといふ事が制度の狙いです。1時間以上もかけて障がい別の施設に行くのではなく、身近なところで、小さな施設で、選んでサービスを受けようというのが強調されていたのを覚えています。今までは選べるような時代ではなかったので、選べるようになって、これから質をどう上げていくかということですよ。

**司会**／障がいの状態というのは、どういふ人が対象になるのでしょうか？

**斎藤**／児童福祉法が変わったときに未就学児の障がい児の施設もそれぞれ別になりました。しかし、知的障がいの子どもたちは数が多いので近くの所で受けられるが、視覚、聴覚障がいの子どもは各県に一つぐらいで数が少ない。身近なところで見れるようにしていこうとの狙いでできたのです。

**田嶋**／行政に相談に行つてそういう施設の利用が必要だと認定を受けて、「**受給者証**」を出してもらつて利用できる

ようになります。

### ◆どんな子がどう利用するか

**司会**／皆さんの施設では、特にこういう方々を受け入れているという特徴があるのでしたら教えてください。

**田嶋**／対象となる方は、幅広くなりませんが、「たいにい・ぼっくす」としては受給者証を持つておられれば受け入れています。ただ、療育をやっているかとか預かっている所かとか聞かれることがありますが、療育かと聞かれると言葉に詰まります。電話してくる方の期待している療育とこちらが考えている療育にずれがあり、期待としては、頑張つて障がいを軽減、改善、回復するということかと思えますが、こちらでは子どもらの居場所を作つて、そこから地域社会に貢献しよう、ここにいろよと発信していこうということなのです。インクルーシブといわれている中で、障がいの特徴に拘わらず「たいにい・ぼっくす」で同じ活動をして、同じ体験を共有するという事を目指しているのです。

**斎藤**／特殊な形でオーソドックスな、古典的な「療育」をやっています。個別療育と小集団療育をやっているの逆で放課後の居場所を求めてお電話を頂いた方には、こちらから説明してお断りすることがあります。

**司会**／おいでになるお子さんはどんな方ですか？

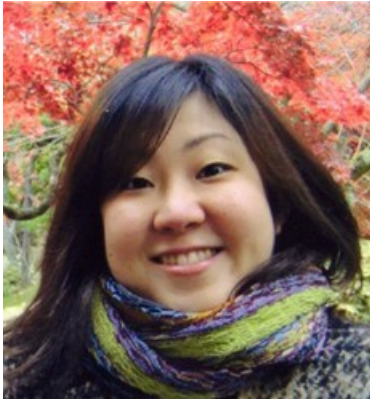
**斎藤**／私たちは個別療育ですので建物は2事業所ともバリアフリーで作つてあります。車椅子の方もまずし、視覚、聴覚の方もいるが大半は知的障がいです。発達障がいの方たちがいますが、こちらでは障がいの制限はしていません。

**司会**／個別にその人に合わせたコミュニケーションを取りながらやつておられるのですか。坂本さんは？

**坂本**／「じゃんぼ☆じゃんぼ」は知的障がいの方、発達障がいの方、精神障がいの方に限つています。年齢も中、高生メインでやっています。中学生が何を求めて生きていくか、その子にどんなたくさんの素晴らしい未来があるのかというところで、提供できるサー

ビスがあるんだったら、そこを利用していただけばいいと思います。放課後等デイの数が少なかった時代もそうだったけれども、今や南区では38ヶ所、中央区では40ヶ所、緑区でも15〜16ヶ所あって、この5年ほどで3倍とか4倍の施設数になって、株式会社も参入してきたから選べるようになりました。ニーズに合ったサービスをとるので、うちは思春期とその後の未来をつなぐということで、いけるかなと思っているんです。

**司会**／たくさんの選択肢の中の一つとして見てもらえば、ということですね  
美濃辺さんはいかがですか？



坂本桃子さん

**美濃辺**／事業所の名前にもあるとおり、言葉で伝えられないことを少しでもくみ取って、寄り添いたいところからスタートしました。開業当初は、学童保育にいられない子どもが多く、児童も少なかったので、そういう子にとっていい居場所だったのかなと思います。ただ、ある事業所の閉鎖に伴ってその事業所の児童が何人か来るようになって、親御さんの要望の中で外遊びであったり、エネルギー消費というようなところで活動してほしいというところの児童が増えてきましたので、今は、外遊びの子が6、7割で、残りの子たちがお部屋で過ごしながら、今までできなかったことや、やりたいことに取り組むような活動になっています。寄り添う大人の役割、ほんのちよつとでも出来たらいいかなということ、今はやっています、やっぱり送迎ができて、遅くまで預かってくれて、というようなニーズがこの地域は多いのかなって思います

### ◆今の課題は。

**司会**／次は、現状抱えている課題とか、この辺は変えたいなということとか、ございますか？

**田嶋**／はい、いっぱいあります。放課後等デイサービスもインクルーシブの社会が進めばなくなるもののかなあと思いつながら仕事をしています。地域の学校に行けて、学童もそういった子を含めてハード面も整って、ソフト面も整ってということになれば、放課後等デイサービスがあえて必要だということにはならないんじゃないかと思っています。

あとは運営者側としての話なんですけど、子どもたちや保護者が事業所を評価したり、直接に声を上げるといのは難しいというのが福祉の特徴のかなと思います。どうしても身内側の評価になり、評価が甘くなるという部分もあり、プロ意識を従業員、スタッフの方に持つてもらおうところを課題として抱えています。

**司会**／評価の客観性をどう確保するか



ということですね。斎藤さんのほうはどうですか？

**斎藤**／放課後等デイサービスがそもそも描いている事業内容と全く別なことをやっていますので、法改正の度にどう当てはめて事業を維持していくかというところがとつても大変で、法人の方針でもう見きれないよと言われたらどうする？という綱渡りです。やっぱり子どもを育てていくつてすぐ手間がかかるもので、専門職として親御さんの支援とか地域に出かけていくということとかにはすぐく時間と労力を使いますが、そこには報酬がない中、どういうふうな事業所を維持していくか頭が痛いところですね。私もこの地域で13年「ぱれっと」をやってきて、おかあさんたちの状況も変わってきていて、うちみたいに送迎がないと、遅くまでやってほしいとか、休みに営業して欲しいとかそういうニーズもあり、親の都合と子どもが育つための正しいありようというところですが、葛藤します。もう一つ大きなテーマだなと思っっているのは、我々の事業所だけではなくて

放課後デイが当たり前に使えるようになって、月曜日から土曜日まで全部預けているというお母さんも少なくないですね。この間、ある高校生の保護者から18歳以降の進路の相談を受けていて、ところで余暇はどうしたらいいんでしょうか、先輩のママたちどうしているんですかって言われて、高校の1年生の保護者だったんであと2年、進路だけじゃなくてそこも考えていかないとだめですよと言いました。お留守番するスキルとか、一人で地域の図書館に出かけていくスキルとかそういうものが育つというところを放課後デイが奪っているというジレンマもあり、長い目でほんとに子どもにとって必要なサービスか見極めていくことが必要だと思えます。そういうところが今後の大きな課題かと思えます。

**坂本**／今までは施設の数が少ないから、預かってくれて送迎があるところが有利でしたが、数が増え遅くまでやるどころも増えました。大きい会社が入ってくると、月曜から日曜までやりますということですが、いいなあ。他で難し

くなつたとか、年令とかでいろんな変化がある子ども達を積極的に受けていて、さらに、ニーズが特化した子ども達も受けるところが増えてきた、じゃあ次はどういう子達なんだろうとなる、どんな障がいがあるうとも一緒にやろうということ、そっちにシフトして行こうということ。南区では重度身体障がいとか肢体不自由の子達が行く場所を、専門でやっているところが少ないので、そっちの事業展開をどうやっていくか、しかし、専門性が必要で、人工呼吸器とか医療的ケアが必要な子たちがいるので、ハードルが高いのです。

**田嶋**／法的にも垣根ができていて、小さい事業所はどうすればいいのかというところ。す。

**坂本**／そうなんです。在宅の2〜3歳の重心身の子が病院から戻ってくるんだけれども、24時間見なきゃいけないとなると、お母さんは寝ないでがんばれと、病院から出されてしまうのだけど、地域の民生委員さんからどうすればいいですかと相談をうけたことが

2年前にあつて、そこから重心身の子どもたちが病院から出た後の地域の受け皿があるのかと調べてみると、本当にはないですよ。痰吸引もできないですよ。看護師さんがいてもね。

**田嶋**／痰吸引のみの資格を受ける研修もあるんですが、はたして、その研修を受けたからといってやるか、できるかというところが、また別問題になるんです。

**坂本**／そこで、医療的ケアの子ども達をなんとかと言っているけれど、相談してみると、お父さん、お母さんが寝ないで疲れきるまでやってから、レスパイトサービスを使いなさい、もし、家族でできないのだったら、月々大金を払って個別に看護師を雇いなさいと言われたそうです。そういうことが実際に起きていることも知らなかったし、その言われたお母さんから、他の重心身のご家族の話とか聞くと、寝不足には慣れてくるわよつという訳です。そんなバカなと思つたのです。次はそこかなと。こちらの法人としてはそちらにシフトしていきたいのですが、何を

どうしたらいいのかわからないので、今年1年はその勉強だと思つていきます。しっかりと調査してからと思つます。痰吸引にしても、看護師もつているからできるといふことでもないみたいですから。

**司会**／山はうんと高いのですね。

**坂本**／はい、高ければ高いほど登りたくなりますので。

**美濃辺**／一番身近に感じるころは子どもに寄り添ってくれるスタッフの確保と維持が難しいです。確保できたころで、国も最初は加算を付けてくれますが、次の法改正では下手するとなくなつたりで、法改正のたびに減収になつてしまい、そこにビクビクしなくてはならないといふのは非常に大きな課題だと思ひます。

今、おじいちゃん、おばあちゃんと暮らしていない家が非常に多いです。うちの施設に限つては1人もいません。共生社会とは言つても、ご近所の理解が得られなかつたりとか、困つて人の思いを知つて、そうではない人をどう巻き込んでいくかといふことが、

課題なのかなと思ひます。近所の理解というだけでもボランティアなのかなと思ひくらしい難しいと思ひます。あとは、義務教育でも、地域の道徳とかそういうところを高めていくことのほうが大事なかなと思ひます。今年の夏から夏休みが短くなるといひますが、子ども達に本当にプラスになるのかなと思ひます。地域の力といふことでは不安になります。

**田嶋**／専門職とはいへ、働く場所は福祉なので、例えば、吸引だけ懸命にやられても困るといふことです。いろいろ理解してもらふには時間もかかります。放課後等デイサービスも18歳までしかいられないのですよ。それまでの間に何をスキルとして身につけてもらえるかです。可愛い、可愛いと可愛がるのはいいのですが、18歳で社会に出ないといけないんです。そういうところを目標にして、私たちは関わつていかなければならないと思ひます。

(おわり)

今回も複数回に分けて、現在「ぼらんていあ通信」に掲載中の「社協事業紹介」記事を転載させていただきます。よろしくお願いたします。

## スポーツや文化を通じた

### 障がいの理解

ボランテニア協会員の皆さま、こんにちは！

相模原市では多くのボランテニアの方々、自治会、地区社協、民生委員・児童委員の皆さまがそれぞれの地区で福祉活動に取り組んでいます。市と市社協も、多くの方々のご協力を得て様々な福祉事業を展開し「みんなで支え合い 地域の力が育む 人になやましいまち さがみはら」を共通のスローガンとして、地域福祉の推進に取り組んでいます。

今号は八月二十四日（金）にあじさ

い会館で開催される「市民福祉活動交流会」まるまるつながりプロジェクト2018」を紹介します。

#### ◎「パラリンピックと障がいの理解」

二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックを控えて会場の整備も着々と進んでいます。競技スケジュールもあらかた決まり、これからますます開催に向けた機運が高まっていくことでしょう。福祉の分野でもパラリンピックを追い風に、スポーツを通じた障がいの理解、障がいのある方の社会参加の機会の創出や支援の在り方が論じられていくこととします。障害者差別解消法等も成立し、スポーツに限らない様々な場面での活躍が期待されることです。そんな中、私たち福祉関係者やボランテニア活動者に求められているのは、盛り上がりつつある障がい理解、支援の機運がスポーツや競技に特化したもの、さらに一過性の流行

にならないよう、この機会にしっかりとした支援基盤を作り上げることではないでしょうか？

相模原市を含めた多くの地方自治体が、これからオリンピック・パラリンピック関連の事業を進めていきますが、協力する私たちの立場としては、この視点を常に意識し発信し続けることこそが、ボランテニア協会や市社協が永年活動してきた理念そのものであると考えるところです。

#### ◎「金澤翔子さんのこと知ってる？」

金澤翔子さん（書家1985年生まれ）はダウン症です。お母さん（泰子さん）の影響で、五歳から書道を始めました。二十歳で初個展を開いて以来、二八〇か所以上で個展を開催。百万人以上の方がその作品に触れており、その活動は海外でも評価されています。NHK大河ドラマ「平清盛」の題字も翔子さんの作品です。最近では泰子さんとお二人で全国を回り、

障がいへの理解や支援の視点等を講演されるなど、活動の幅を広げています。その二人が、「市民福祉活動交流会」(あじさい会館)にやってきました。「障がいを考える」私たちにできること」として翔子さんは席上揮毫を、泰子さんは自らの体験をもとに講演を行います。

### ◎市民福祉活動交流会で新たな出会いを！

多くの相模原市民が福祉活動の主体として活躍することを願い、あじさい会館内で様々なプログラムが展開されます。皆様もぜひご来場ください。

日時 八月二十四日十時～

場所 相模原市立あじさい会館内

### ☆ 絵本の三〇〇年を旅する「世界

図絵」から今日まで 世界初の絵本から今日までの世界の絵本の展示 十時～十六時

☆ 講演会「子育てに絵本を」大村 祐子氏 十一時

☆ 読み聞かせ・おしゃべり 十時頃～、十四時～

♪ 子どもの居場所づくり相談コーナー

♪ ふれあいサービスコーナー

♪ ファミリー・サポートコーナー

♪ ボランティア活動案内

♪ フードドライブコーナー

お米、レトルト食品、缶詰等未開封、消費期限内の食品を預かり必要な個人、団体に配分します。皆様のご家庭で眠っている食品がありましたら、当日お持ち下さい。なお生鮮食品はご遠慮ください。

### ◎ 金澤翔子 席上揮毫・書展

金沢泰子 講演会「障がいを考える」わたしたちができること」

開演 十三時十五分～

会場 あじさい会館ホール

\*金澤さんの催しのみチケット(千円)が必要です。お問い合わせはボランティアセンターまで。売り切れが予想されます。お早めに！

市社協 田所

この記事の内容は、平成三十年七月発行のぼらんていあ通信から転載したもので、記事内容にある日時等は既に終了したものですので、ご理解ください。



## 相模原の史跡 原当麻観心寺

このページでは相模原の史跡を紹介します。

JR相模線原当麻駅で降り、西側に出て、そのまま進みますと、県道46号相模原茅ヶ崎線の「原当麻駅入口」信号に出ることが出来ます。信号を渡って、上溝側に、ものの50mも行くと、左側が観心寺に

なります。宗派は時宗。武相31番札所。正観世音大菩薩。聲音山観心寺と大書された看板がたっています。

庭は道路に向かって開かれており、山門もなく、自由に入れます。原当麻自治会の活動場所にもなっており、住民の皆さんにはなじみの深いお寺さんのようです。

この地の松本家の系図によると、8代目の兵衛尉景宗は後村上天皇の警備にあたった武士でしたが、南朝の勢力が衰えていく時、吉野から離れて、信州松本で隠れていましたが、1361年(康安元年)の春に当麻山に来て、



聲音山観心寺

第七代真空中人に会うこととなり、深く信じ、ここに留まりました。  
信心深い生活の中、相模川で釣りをしていると金色の観音菩薩像を見つけます。上人に相談のうえ、我が家を改造してお堂を作り信仰しました。その後、北条に仕えたりしていましたが、北条滅亡後は台地上の原当麻の地を開拓して、そこに観音堂も移し、それが現在の観心寺となりました。



※座間美都治著「相模原の史跡」と原当麻自治会ホームページを参考にしました。

祭礼は、御開帳が卯年の春。縁日が10月9日、19日、29日(御九日)。花まつり、盆踊りなどがあります。現在は無檀寺院で、本寺無量光寺が兼務しています。  
小田原北条の時代、下当麻は小田原と八王子・川越方面に通じる水陸の要衝でしたので、しかるべき武士たちがこの地を守っていたものと考えられます。

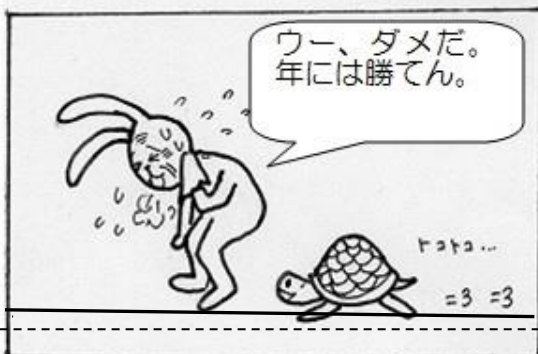
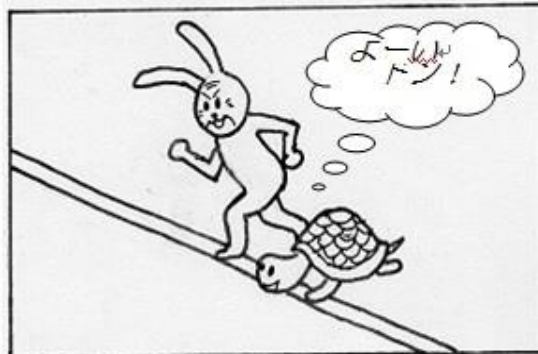


# わくわくさん

番外編

作 髯野 克己  
絵 鹿野 徹子

## ウサギとカメ～年には



### 高齢者・障がい者の 相談は

#### 介護保険に関する相談窓口

042-769-8321

介護保険課

給付・保険料 042-769-8321

認定 042-769-8342

緑高齢者相談課 042-775-8812

中央高齢者相談課 042-769-8349

南高齢者相談課

042-701-7704

城山保健福祉課

042-783-8136

津久井保健福祉課

042-780-1408

相模湖保健福祉課 042-684-3215

藤野保健福祉課 042-687-5511

#### 障がい者の相談窓口

緑障害福祉相談課 042-775-8810

城山保健福祉課 042-783-8136

津久井保健福祉課 042-780-1412

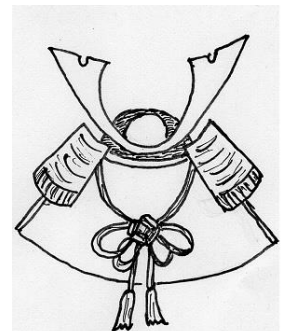
相模湖保健福祉課 042-684-3216

藤野保健福祉課 042-687-5511

中央障害福祉相談課

042-769-9266

南障害福祉相談課 042-701-7722



NEW Color

サヨナラのぬくもりを  
彼に くちづけ  
君は 部屋を出る

哀しみに 濡れた眼で  
強く直した 紅いルージュ  
春の空の風に 顔をあげて  
新しい季節のきらめきに  
あざやかな 色で もっと  
Ah 綺麗にかわって  
新しい輝き 見つけ出して  
僕は ずっとここから祈っている

側にいてあげたいと  
胸を だいてた  
こんな男より

気まぐれな優しさに 肩をゆだねる  
そんな君の愛に  
僕はいつもなれなかった  
新しい季節のきらめきよ  
たおやかな色で もっと  
Ah 唇 てらして  
新しい幸福 探しだして  
悪い夢は 目覚めが 消してくれる

新しい季節のきらめきよ  
華やかな色で 染まる  
Ah 唇 飾って  
新しい道のりを踏み出す 君よ今  
僕はいつも声援を 忘れないよ

NEXT TO YOU!

夜のバイク とばすのは 君のかけた TELのせい  
壊れかけた 関係を とり戻したい それだけさ

呼びだして くれたなら 何処へでも とんでゆく  
騒ぐ風 あびながら 街明かり 追いかける

今すぐに 会って わがままを 何だって 聞いてやる  
もう一度 側に よりそって 力に なってやれるさ

そうさ どこにも いかないでくれ  
俺には 君が 必要なんだ  
ずっと 隣に いてほしい  
誰よりも とても 大切なんだ

ドアの前で 待っていた 憂い顔が 愛しくって  
はおっていた 革ジャンを 背中にかけて キスをした

見つめ合う まなざしが この胸を 熱くする  
しっかりと 寄せた頬 ぬくもりを つたえてる

嫌なこと もしも あるのなら 愚痴にでも つきあうさ  
夜明けまで 強く 抱きしめて 痛みも 分かちあえるさ

だから はなれて 行かないでくれ  
君しか 今は 要らない そうさ  
他の すべてを なくしても  
すこしも 何も 惜しくはない

負けないで 生きていくことも いさぎよくなることも  
人生は 人と 較べるものじゃないことも  
すべて すべて すべて すべて 約束できる

作詞家 朝日 優

昭和 44 年 東京生まれ

県立愛川高等学校卒

慶応義塾大学理工学部卒

平成 13 年 5 月 永眠

## 市内高齢者支援センター

### 二十六か所を訪問 その26

#### 東林第2高齢者支援センター

高齢者支援センターは今年四月より新しく開所したこのセンターを含めて、今年度から相模原市全域で二十九か所になりました。

東林第2地区のそれは小田急線東林間駅から小田急相模原駅方向へ向かって十分ほど。空き家だったアパートを改装した建物です。職員は全員で六人です。当日は緊急対応などで出ている職員の



東林第2 高齢者支援センターの看板

方も多い中、山田あゆみさんにおはなしを伺いました。

昨年度までの東林高齢者支援センターの担当地域が高齢者人口の増加などにもない、東林第1と第2地区に分かれました。相南、松が枝町、東林間六丁目、七丁目、八丁目が東林第2の担当地域です。特に相南地域の方は近くなってこちらに来やすくなりました。

この地域のよいところとして「静かで落ち着いた街」「小田急相模原駅や中央林間、相模大野の駅が比較的近くて便利」「道が平坦で歩きやすい」「散歩道があって緑が多い」などが高齢者地域情報誌「いきいきガイド」にも書かれています。基本的には、電話等で相談を頂き職員がご自宅に伺っていますが近くの方は相談にみえるようになりました。内容は介護保険申請などの相談が多いです。高齢者の総合的相談窓口として利用してください。介護予防教室の取り組みも進んでいます。

〈東林水戸黄門体操教室〉は理学療法士の鏑木(かぶらぎ)先生の指導で、水戸黄門のテーマソングに合わせて行う体操によって、歩行に使う筋力を向上させる教室です。

〈転倒骨折予防教室〉は専門の整骨院の先生により骨格標本を使ってどこが骨折し易いか等を学びます。その時だけの教室ではなく、自宅で継続するための工夫も凝らしたものです。

〈転ばぬ先の元気教室〉はNHKラジオ体操でおなじみだった長野信一先生の指導で行いました。

そして今、新しく取り組み、モデル事業として力を入れているもので

〈認知症予防プログラム〉は「お料理の献立を考えて脳を鍛えよう」というものです。チョット間違えそうですが、お料理を学ぶものではないのです。食材、形状、加熱法などが書いてあるカードを使ってゲーム感覚で献立を考え、計画し、実際に作って皆で食べる、五日間のコースです。この過程で「認知症を予防すること」を目的としていて、仲間作りにもなります。ほかにウォーキング、旅行、パソコンなどの認知症予防プログラムがあります。

高齢者地域情報誌「いきいきガイド」は手元に一冊あると心強い味方になります。その中にはボランティア協会のハンディキャブ号の利用方法も載っています。

ます。年四回「東林第2だより」を発行。センターで行った行事や季節ごとの話題も載せています。

介護予防教室の〈足腰体力テスト〉を来年三月開催予定です。二回に亘っての教室なので、どのくらい体力が変わったのかも見えてきます。日時は未定ですが分かり次第公民館などにチラシを置かせて頂きますので、乞うご期待！ だそ  
うです。

崎、植野)

(山



東林第2高齢者支援センターの全景

\* 東林第2高齢者支援センター

〒252-0312

相模原市南区相南1-7-7

電話 042-705-8278

この施設訪問の記事は、「平成二十七年十二月号の「ぼらんていあ通信」に掲載されたものを転載したものです。内容について一部古いものがあるかもしれませんが、記事作成時の内容ですので、ご容赦ください。

## わくわく編集委員及び印刷・製本ボランティアせん 募集！！

編集委員として、企画から取材・座談会など幅広くボランティアに関する情報を、できるだけ新鮮なまま読者に提供できるよう活動していただける人材を募集しています！

また、編集に携わるのは無理でも印刷や製本のお手伝いならできるかも・・・というボランティアさんも大募集です！

お気軽に、まずは電話をしてきてください。お待ちしております。

**連絡先** 〒252-0236

相模原市中央区富士見6-1-20

相模原市立あじさい会館中央ボランティアセンター内

相模原ボランティア協会 広報委員会わくわく部会 まで

TEL 080-3175-2139 (小倉)



今回は

フードコミュニティ代表

おただい  
中臺 博さんを

1つ紹介します。

あじさい会館ボランティア協会事務所でお会いしました。

中臺さんは、様々なお仕事をされています。

◎フードコミュニティ代表

◎ボランティア協会ハンディキャップ  
運転ボランティア

◎市民後見人

◎日本防災士



◎認知症キ

ャ  
ラバンメイト

◎神奈川県第

三者評価調査

委員

◎横浜市福祉

サービス第三

者評価委員

等々です。

その中から今回は、フードコミュニティを中心にお話を聞きました。

### 活動は

相模原市の地域包括ケア推進課が主催した「地域活動実践講座」を受講したメンバーでのグループワークにおいて、藤野から来ておられる方が、農家さんで育てている野菜が食べきれなく、販売するほどの量ではないが、近所も農家さんなので差し上げることも難しいという課題が提起されました。

その頃、市内でもこども食堂が話題になりつつあり、そこで使ってもらえないかと、いくつかのこども食堂さんのお手伝いをしながら需要がある事が判明、また食材を提供している方も何処へ持つていけばよいのか、運搬には時間と費用もかかっているの、何とかしたいという声もお聞きし、こういう事を解決し、お互いの思いをマッチングする役割をしようということになり「フードコミュニティ」という任意団体を二〇一六年十月に設立しました。

現在は個人の方十六名、企業三社、三団体様より定期的に食材を提供していただき、提供先は緑区「みたけこども食堂」「くすのきこども食堂」、中央区では「みんなの居場所ちやお」「ふじみみんなの食堂」「きらくくらぶ」、南区では「ひよここども食堂」「ひばり食堂」「あさみぞみんなのコミュニティ」などです。

また、新たな取り組みとしては「あさみぞみんなのコミュニティ」を地域の皆さんと立ち上げました。

二〇一七年に二回、試験的に開催し、二〇一八年八月からは毎月一度継続的に開催しています。

市社会福祉協議会のこども健やか育成事業の助成金を頂き、運営資金の一部として活用しています。

「あさみぞみんなのコミュニティ」は参加するすべての方が主役であり互いに支えあい、お子様から高齢の方までが気軽につどい、お食事をしながら会話を楽しむ居場所を設けて、地域コミュニティを確立し活性化を図る活動をしています。地域のお年寄りの一芸を見つけ出し、高齢者にも光を当

て、輝きを取り戻して頂くと共に子供達にも普段体験出来ないお話やものづくりを学んでもらうという事で設立しました。

## 【出身は】

生まれは千葉市で高校卒業まで暮らしていました。卒業と同時に現在のパナソニックに入社し、横浜市内にある寮で過ごし、寮生活の満期に併せ相模原市に小さな建売を購入し両親を呼び寄せ、その後結婚に併せ市内に家を構え、会社は定年まで勤め、その間両親介護や看取りを体験しました。

## 【家族は】

娘が一人います。独立して都内に住み放送局でニュースの編集の仕事をしています。現在は妻と二人で暮らしています。

## 【趣味は】

若い頃はコンサートや演劇鑑賞によく出かけました。定年当初は映画が好きで、かみさんとよく出かけましたが、現在は忙しくてそれもできません。

## 【最近読んだ本は】

読書はあまりしませんが、消防関係の事が好きで「Jレスキュー」という雑誌を定期購読しています。

## 【これから自身は】

サラリーマン時代は仕事中心で、地域とのかかわりが少なかったので、定年後は地域のためになにかしたいと思いい、様々な講座に参加しています。五十代後半に心筋梗塞を患い、その後時々冠動脈が閉塞し、バイパス手術と肥大した大動脈の人造弁への置換手術を受け障がい者になりました。

現在は様々な福祉の恩恵を受けています。その恩返しが出来たらとボランティア活動に奔走しています。

人間どうしても何らかの負荷がないとさぼる傾向にあるため自分に適当な負荷をかけ叱咤激励しながら生きています。

今年四月からは自治会の役員を担当することになり、次年度は副会長、その翌年は会長と三年間は役員を続ける事になります。

最近では自治会への加入率も減少、子

供会も様々な事情で加入者が減少し、無くなった所もあります。

なんとなく堅苦しい、役員になりたくないなど理由はいろいろあると思いますが、いつ起こるかかわらない災害発生時、何かあった時の協力体制は必ず必要です。日頃からのお付き合いは大切です。日頃からの顔合わせコミニティは必要です。

時々あるイベントへの参加などで、つながって少しでも開かれた自治会を目指すためその活動の輪を広げるための活動をしていきたいと思えます。

六十代のバイタリテイのある素敵の方です。これからも地域活動を、様々な活動に力を注いでいただきたいと思います。

取材日 二〇一九年三月五日  
聞き手 山本和子

### 「わたし」

右手の人差し指を伸ばして、自分の胸に向ける。



今回も、手話の基本的な会話を覚えていきましょう。

基本的な単語を覚えることで、簡単な会話を楽しむことができます。

わたしたちの案が通りそうです。

### 「成功」

手のひらを上にして、左手を出しておき、右手のこぶしを鼻に当て、少し前へ出す。右手を下ろして左手の手のひらにのせる。



### 「案」

右手の親指を伸ばしてこめに当て、右前方に出す。



### 「～たち」(みんな)

甲を上にした右手を胸の前に出して、大きく水平に円を描く。



### 「～だろう」

右手の人差し指と中指を立て、人差し指のつめを中指の腹に当て、指文字「ら」の形で軽くノックするように少し下げる。



### 「大丈夫」

右手の指を少し曲げて左胸にあて、軽く弧を描きながら右胸に異動させる。



### 「失敗する」

手のひらを上にして左手を出し、右手のこぶしを上方から打ち付けると同時に手を開く。



### 「それ」

右手の人差し指で、その物を指し示し、目線も指先とともに動かす。



それが失敗したのはお兄ちゃんのせいじゃないよ

### 「違う」①

左手は「兄」の手話のまま、右手の親指と人差し指を伸ばし、甲を自分に向けて方の前に置く。



### 「責任」

左手は「兄」の手話のまま、右手は、指を折り曲げ、肩にかぶせるようにして下す。責任は肩にかかるという意味から。



### 「お兄ちゃん」

左手の中指を立て、肩から少し上げる。中指は兄弟を表し、兄なので肩より上上げる。あとの文脈上左手にしているが、一般的には右手を使う。



### 「違う」②

ひじから先をひねり、甲が前方を向くように素早く反転させる。両手でしたほうが意味合いが強い。



いかがでしたでしょうか？会話がしたくなりましたね。

# パズルにチャレンジ 解答編

今回の問題は関東圏のスケート場です。  
意外に知られていない場所でした。  
探しましたか？

①ア	ネ	②サ	キ	③ド	ー	ム	④リ	ン
サ		イ		モ			ン	
ヒ				ノ			ク	
⑤ア	ク	⑥ア	リ	ン	ク	チ	バ	⑦キ
レ		リ			ニ			リ
ツ		⑧ー	ト	リ			⑨ウ	ユ
ク		ナ			⑩ニ	ツ	コ	ウ
ス				⑪ト				ス
	⑫ヤ	⑬マ	ナ	シ	ヤ	ツ	ガ	ダ
		イ		マ				ー

## ヨコのかぎ

- ① 市原市にある屋外型スケート場。〇〇が〇〇
- ③ 日光市にある細尾〇〇〇〇〇ク
- ⑤ 千葉市にある通年利用可のリンク
- ⑧ 軽井沢のケラ池スケ〇〇〇ンク
- ⑩ 〇〇〇〇霧降スケートセンター
- ⑫ 県立のセンター。連山の名称が冠に

## タテのかぎ

- ① 新潟市にある。ネーミングライツで名称となる。
- ② 〇〇たまアイスアリーナ
- ③ ニ〇〇〇〇〇〇アイススケート場
- ④ シチズンプラザ アイススケート〇〇〇
- ⑥ 地元です。銀河〇〇〇〇
- ⑦ 東毛地区唯一のスケートリンク。……トセンター
- ⑨ 〇〇のみやしスケートセンター
- ⑪ 〇〇〇えん 屋外アイススケートリンク
- ⑬ い〇〇ち青少年スポーツセンター

濁音、半濁音はどちらでもなしでもありでも読めるということ

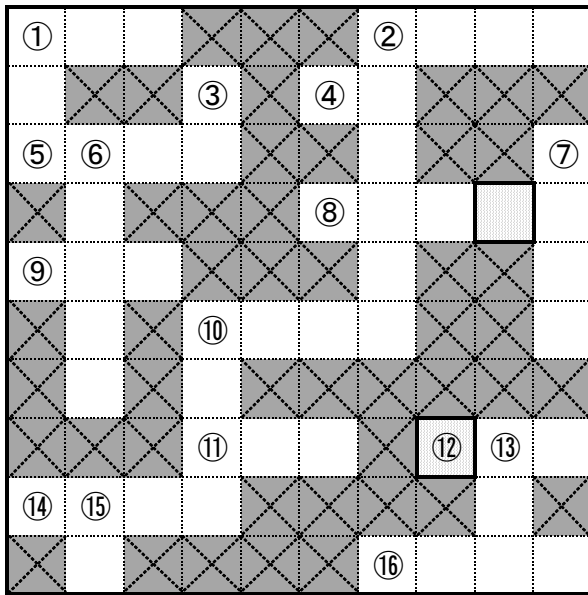
□の4文字を集めましょう。  
高崎市郊外の  
ニュー〇〇〇〇〇アイスアリーナ。  
答えは、サンピア でした。





# パズルにチャレンジ 問題編

今回の問題は市内のこどもセンターと児童館の名前です。地域の名前ですからわかります。



## ヨコのかぎ

- ① 鹿沼台でこの名前？ う～ん？
- ② 相模線の東側、照手姫ゆかりの地名。
- ④ ○○なんですよと、ダジャレですか？
- ⑤ 相原高校の一角といったところにあった。
- ⑧ 同じ名前つきで3つの施設。1・2・3！
- ⑨ 旧4町の中心にあります。
- ⑩ か○○○○。有名な神社と似ています。
- ⑪ 上鶴間本町4といえば、ここです。
- ⑫ 昔はここは上段の台地だが「上溝」だった。
- ⑭ 北公園の西側の地域にある。近くに小学校。
- ⑯ 鳩川と相模線の間にあります。駅も近い。

## タテのかぎ

- ① 淵野辺公園のすぐ近くに位置する。
- ② 上溝から坂を上った地域にある。星が丘ではない。
- ③ こ○○。すすきの町にあるかわいい名前の児童館。
- ⑥ 129号からちょっと西側にある児童館。
- ⑦ 津久井街道沿い、町田市にも同じ地名がある。
- ⑩ 元町役場(今は総合事務所)と同じ地域にある。
- ⑬ ○○○みなみこどもセンター。小田急線近く。
- ⑮ ○○のだいには2つの児童館がある。

濁音、半濁音はどちらでもなしでもありでも読めるということで

□の2文字を集めましょう。  
簡単ですよ。

□ □ こどもセンター



## 私が選んだハイキングコース ～照手姫・ロマン探訪の小路を歩く～

旧相模原市は3段からなり、相模川が流れる下段、市役所などがある上段、その中間が上溝などがある中段です。中段と上段の間には約30mほどの段差があり、ちょっとしたミステリーゾーンです。今回は横山丘陵緑地を歩いてみました。

- ①横山公園の東側の入り口を出発点としました。横山公園へはJR相模線の上溝駅が最寄り駅です。バスならJR相模原駅や淵野辺駅からのルートがあります。(0)
- ②公園名の大きな碑を後にして、上溝駅方面に下りて行きます。大きな通りの割には交通量が少ない静かな道です。右上には上溝中学校が見えてきます。道なりに行くと、上溝の駅となります。さらに下りていくと、右にダイエーがあり、手前の道を右に入ると、駐車場エリアになります。高齢者ホーム前の道に入り、ちょっと行くと、突然、森の中に入ってしまう。(1160)ここはビックリするところです。後は道なりに進みましょう。
- ③一旦、森の道が終わり、住宅地の道路になります。左側に高野旅館があり、旅館の前に相当古い道祖神などがいくつか建っていて、日金沢橋の信号になります。(1660)信号を渡ると、案内板などがあり、草が広がっていて、ちょっといい雰囲気です。
- ④右側の山側の道を進みます。JR相模線のすぐ西側を歩いて行きます。少し行くと、左側に50m下りると鏡の泉という案内がありますが、ここはそのまま進みましょう。(2050)
- ⑤車が通る狭い舗装道に出ます。出たところでUの字に曲がっていて、車はそろそろと走っています。ここが「せどむら坂」です。(2300)せどむら坂をそのまま下って行きましょう。右の崖には2ヶ所、穴が掘られています。防空壕かなにかのように見えます。
- ⑥坂を下りきると、橋を渡る手前に次の探訪路への入り口があり、ここで舗装道路と分かれます。右側の広場に向かって進みますと、姥沢幻想の碑と四阿などがあるゾーンになります。意外に広々とした所です。このあたりでは気をつけて見ると、右側の崖を上る階段が2ヶ所あります。上ると線路のある所まで出て、上段の住宅地へと続きます。
- ⑦上へは上らないで少し進むと、普通の道に出てしまい、もはや住宅地に入ってしまうので、戻りましょう。(2950)せどむら坂から右側の川に下る道があり、ここを下りて、帰りは姥川沿いの道を歩くとよいでしょう。すると、行きで見られなかった「鏡の泉」の所を通ることになります。
- ⑧上溝駅を過ぎたら、上溝中学校の正門の左から横山公園方面に上ります。これまた、山道らしい楽しさがあります。丹沢の山なみが見事に見えます。公園まであがったら、自由に園内を散策しましょう。

( )内は参考歩数を示します。

(西本 敬)

# 照手姫 ロマン探訪の小路を歩く

横山丘陵緑地の上の段から下に下りて、照手姫伝説も求めて姥川沿いを歩いた。



故吉川啓示画伯による「姥沢幻想」



せどむら坂



照手姫が鏡に使ったかもしれないとして鏡の泉という名がついたか？ 今は水も少ない。



出発地点 碑の公園名は1984年11月故館盛静光市長の揮毫による



上溝駅付近



ダイエー裏、あっという間に小路に入る

スーパーダイエー裏の駐車場、「上溝ジョイフルホームそよ風」の前の道がそのまま探訪路になる。



## —情報のページ—障がい者に関するマーク①—

今回から、障がい者に関するマークをご紹介します。見た覚えがあるものもありますが、意外と知らないものもありますね。この機会に覚えておきましょう。

(この情報は、相模原市のホームページから抜粋)

### 障がい者のための国際シンボルマーク



障害者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。マークの使用については国際リハビリテーション協会の「使用指針」により定められています。駐車場などでこのマークを見かけた場合には、障害者の利用への配慮について、御理解、御協力をお願いいたします。

※このマークは「すべての障害者を対象」としたものです。

特に車いすを利用する障害者を限定し、使用されるものではありません。

【図柄説明】青四角に白抜きで車いす

### 身体障害者標識



肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークで、マークの表示については、努力義務となっています。危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。

【図柄説明】青丸に白抜きでクローバー

### 聴覚障害者標識



聴覚障害であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークで、マークの表示については、義務となっています。危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。

【図柄説明】緑丸に黄色で蝶

## あなたもハンディキャップボランティア号に 乗ってみませんか

～協会PRのページ～

協会では運転や介助のボランティアをやっていただける方を募集しています。また、ボランティアをやってみようという方のために1日体験の機会をもうけています。地域社会へのデビューのチャンスです。どうぞチャレンジしてみてください。



車の運転ならま  
かしといて下さ  
いよ！

一人で外出が困難な方は車いす利用の方だけではありません。  
ご自分の車で活動に参加できる方式（セダン方式）も採用して  
います。この機会にどうぞご参加ください。

ご自分が持っている力を社会に  
生かすチャンスです。ご一緒しま  
せんか？

**あじさい連絡所は、電話/FAXとも**

**042-759-7982 です。**

**連絡先**

〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20  
市立あじさい会館2階中央ボランティアセンター内  
電話/FAX 042(759)7982 (相模原ボランティア協会)



# 編集後記

☆平成最後の「わくわく」を届けます。令和の世が思いやりと平和に満ちたものでありますよう祈ります。  
(西)

☆まもなく「令和」の時代が始まりますね。「令子とか和子という名前が流行るかな・・・」  
(和)

☆七三才、食欲が落ちてきました。

☆先日は、みそラーメンと高菜チャーハンを食べるのがよかったです。(髭)  
☆はやぶさ2が小惑星リュウグウに無事に着陸。その後の実験にも成功。後は、無事に地球に帰還し、実験データなどを持ち帰ってきてほしいですね。  
(倉)



さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

わくわく 2019春号 (第45号)

2019年4月20日発行

編集人 小倉 義男  
西本 敬  
髭野 克己  
山本 和子  
高橋 功  
勝部 幸三

イラスト 鹿野 徹子

編集・発行・印刷；

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会  
広報委員会 わくわく 部会

本誌に使用している用紙(表紙を除く)はイオングループから提供されたものです。

## 表紙の絵

障害者地域活動支援センター「ウッティショップきこり」の内田雅輝さんの作品です。春のうきうき感がいいですね。「きこり」は木工作業を中心に木のハガキ(動物や花)を制作しています。また、毎年メンバーの絵をカレンダーにして好評を博しています。



さがみはら ぼらんていあ情報誌 **わくわく** 2019年春号（第45号 4月20日発行）  
発行：特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会 広報委員会わくわく部会  
〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-20 あじさい会館中央ボランティアセンター内  
☎042-759-7982 URL <http://sagamiva.info/> e-mail: [sagamiva@feel.ocn.ne.jp](mailto:sagamiva@feel.ocn.ne.jp)